

帯状疱疹ほうしんにご注意

空の星もいてつくような寒夜が続き、まさに大寒（今年は1月20日〜2月3日）の頃、皆さまお元気にお過ごしでしょうか？ 世の中を騒がすウイルスの話もあとしばらく続きそうな気配ですが、他にも私たちの身の周りに潜む身近なウイルスが引き起こす病気のあることをご存知でしょうか？

高齢者がかかると重症化することもある帯状疱疹（ほうしん）も実はウイルスが原因で起こります。子供の頃に水疱瘡にかかったことがある人は体内の神経節にこのウイルスが潜んでいます。年齢とともに起こる体力の低下や疲労、ストレスが引き金となり、免疫力が落ちてウイルスが活発になると、帯状疱疹という病気を引き起こします。皮膚にピリピリ、チクチクとした痛みやかゆみなどの症状と共に発疹が現れ、水ぶくれになる症状です。

治療には抗ウイルス薬

（飲み薬、塗り薬）と鎮痛薬が使われます。薬を内服することで治りが早くなります。しかし、厄介なことに皮膚の症状が改善しても神経痛のような痛みや感覚のまひが残ることもあるため、その後の症状を軽くするために



も、症状があるときはかかりつけ医や皮膚科医を早めに受診しましょう。

また帯状疱疹はワクチンの接種である程度予防することができるので、気になる方は医療機関にお問い合わせてください。

帯状疱疹は水疱瘡にかかったことのある人な

ら、誰でもかかる可能性がある病気。特に心や身体が疲れている時は免疫力も低下していることが多いので、体内に潜んでいるウイルスが活動しやすい状態です。日頃から免疫力を低下させないことが大切ですので、バランスの良い食事や十分な睡眠を取り、基礎疾患のある方はその管理も心掛けましょうね。春の訪れを待つ梅のつぼみのように、皆さまの笑顔も元気に、皆さまの花開きますように。（薬剤師 西 美香）

